

シロイチモジヨトウの捕獲が多く、シロオビノメイガの飛来が早い！

てんさいをはじめ各種作物での被害に注意！

シロイチモジヨトウとシロオビノメイガは、いずれも暖地から飛来し、特に、てんさいにおいて茎葉の食害が問題となる害虫です。このうち、シロイチモジヨトウは、昨年、全国的に様々な作物において多発し、道内でも、てんさい、ねぎ、キャベツなどで食害が認められました。この成虫は、体長約 15 mmの灰褐色であり、前翅には白色～黄褐色の不鮮明な斑紋を有します(写真1、上右)。卵は数十個が一塊となって葉に産み付けられ、成虫に由来する灰褐色の鱗毛によって薄く覆われます。幼虫の体色は個体差が顕著で淡緑色から黒紺色まで様々ですが、中齢以降の幼虫の腹部側面に明瞭な白い線があることが特徴です(写真1、上左)。老齢幼虫の体長は 30 mm程度であり、同じヤガ科のヨトウガ老齢幼虫よりも小さく見えます。もう一方のシロオビノメイガは、てんさい、ほうれんそう、うり類の害虫です。雌成虫(写真1、下右)は卵を葉裏の葉脈沿いに計 80～100 粒程度産卵します。幼虫(写真1、下左)はてんさいの葉に糸を張って折り曲げ、その中に潜みます。両種ともに幼虫は葉の表皮を残して葉肉を網目状に食害することが特徴であり、表皮を残さないヨトウガの食害とは異なります(写真2)。いずれの幼虫とも成育が進むと葉柄や中肋を残して食害します。

シロイチモジヨトウは、長沼町に設置したフェロモントラップにより、成虫の捕獲数が、7月4半旬以降、急激に増加しています。また、シロオビノメイガは、北斗市(道南農試)の予察灯により、成虫が平年よりもやや早く確認されています。さらに、向こう1か月の気温は高く、降水量はやや少ないと予報されています。両種とも、高温少雨を好むため、このような気象が続くと、幼虫の発生密度が高まり、食害も活発となる恐れがあります。

以上のことから、ほ場観察につとめて発生種を確認し、防除が必要な場合には、登録のある農薬を用いて適切に防除を実施してください。

1. 発生地域 全道

2. 発生量あるいは発生前 多(シロイチモジヨトウ) やや早(シロオビノメイガ)

3. 注意報発令の根拠

- (1) シロイチモジヨトウは、長沼町の予察ほ場のフェロモントラップで、7月4半旬以降、成虫の捕獲数が急激に増加した(表1)。成虫の捕獲は、比布町、北斗市及び訓子府町でも認められている。
- (2) シロオビノメイガは、道南農試(北斗市)の予察灯で、7月26日(平年比:5日早)に初発が認められた。7月4半旬には、中央農試(長沼町)のてんさい圃場(無防除)において、幼虫及び食害が認められている。
- (3) 7月30日付け札幌管区気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はやや少ないと予報されていることから、今後、幼虫の発生密度が高まり、食害も活発になる恐れがある。

4. 防除対策

- (1) シロイチモジヨトウは、過去に、カーバメート(RACコード:1A)、有機リン(同:1B)、ピレスロイド(同:3A)、ベンゾイル尿素(同:15)、最近では一部のジアミド(同:28)など、各種薬剤の感受性低下が報告されていることから、散布数日後に防除効果を確認して加害が止まらない場合は他系統薬剤を散布する(表2、3)。
- (2) シロオビノメイガは、薬剤が効きやすい若齢幼虫のうちに防除する。ヨトウガに対して防除を実施しても被害が抑えられないことがあるため、本種に登録のある薬剤を選択する(表4)。



写真1 シロイチモジヨトウ(上)及びシロオビノメイガ(下)の幼虫と成虫



写真2 シロイチモジヨトウ(左)、シロオビノメイガ(中央)及びヨトウガ(右)の幼虫によるてんさいの食害

表1 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる捕獲頭数

月半旬	長沼	北斗
7.1	0	3
2	0	2
3	3	5
4	12	15
5	22.5	7
6	14.5	0

表2 ねぎのシロイチモジヨトウに対する農薬登録一覧(2026. 8. 4 現在)

殺虫剤系統 (RACコード)	農薬の種類	有効成分濃度	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	総使用回数
カーバメート(1A)	メソミル水和剤	45.0%	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	4回以内
有機リン(1B)	プロチオホス乳剤	45.0%	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	4回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布、無人航空機散布及び株元灌注は合計3回以内)
ピレスロイド(3A)	エトフェンブロックス乳剤	20.0%	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	2回以内
	シベルメトリン乳剤	6.0%	1,000倍	収穫7日前まで	5回以内	5回以内
	ベルメトリン乳剤	20.0%	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
	ピフェントリン水和剤	2.0%	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
スピノシン(5)	スピネトラム水和剤	11.7%	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
	スピノサド水和剤	25.0%	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内
アベルメクチン・ミルベマイシン(6)	レビメクチン乳剤	1.0%	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内
	エマメクチン安息香酸塩乳剤	1.0%	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
ピロール(13)	クロルフェナピル水和剤	10.0%	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
ベンゾイル尿素(15)	フルフェノクスロン乳剤	10.0%	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内	3回以内
	クロルフルアズロン乳剤	5.0%	2,000倍	収穫21日前まで	3回以内	3回以内
	テフルベンズロン乳剤	5.0%	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
	ルフェヌロン乳剤	5.0%	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
ジァシル・ヒド'ラジ'ン(18)	クロマフェノジド水和剤	5.0%	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
	テブフェノジド水和剤	20.0%	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
	メトキシフェノジド水和剤	20.0%	4,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
METI剤(21A)	トルフェンピラド乳剤	15.0%	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
オキサジアジン(22A)	インドキサカルブ水和剤	5.0%	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	2回以内
メタフルミゾン(22B)	メタフルミゾン水和剤	25.0%	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
ジアミド(28)	テトラニリプロール水和剤	18.2%	2,500～5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	4回以内(灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内)
	シアントラニリプロール水和剤	10.3%	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内(但し、株元灌注は1回以内))
	フルベンジアミド水和剤	20.0%	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
	クロラントラニリプロール水和剤	5.0%	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	4回以内(灌注は1回以内、定植後の処理は3回以内)
メタジアミド(30)	フルキサメタミド乳剤	10.0%	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	2回以内	4回以内(苗浸漬は1回以内、株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
	プロフラニリド水和剤	5.0%	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
ピリダリル(UN)	ピリダリル水和剤	10.0%	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内	4回以内

※表1、2とも、使用方法が「散布」の単剤のみを抜粋した。

表3 キャベツのシロイチモジヨトウに対する農薬登録一覧(2026. 8. 4 現在)

殺虫剤系統 (RACコード)	農薬の種類	有効成分濃度	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	総使用回数
有機リン(1B)	プロチオホス乳剤	45.0%	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	2回以内
メソイオン(4E)	ジクロロメゾチアズ水和剤	18.4%	4,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
スピノシン(5)	スピノサド水和剤	25.0%	2,500～5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	4回以内(定植前は1回以内、本圃では3回以内)
アベルメクチン・ミルベマイシン(6)	レビメクチン乳剤	1.0%	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内
BT剤(11)	B T水和剤	10.0%	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	—	—
ピロール(13)	クロルフェナピル水和剤	10.0%	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
ベンゾイル尿素(15)	フルフェノクスロン乳剤	10.0%	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
ジァシル・ヒド'ラジ'ン(18)	テブフェノジド水和剤	20.0%	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
オキサジアジン(22A)	インドキサカルブ水和剤	5.0%	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
ジアミド(28)	テトラニリプロール水和剤	18.2%	2,500～5,000倍	収穫前日まで	3回以内	4回以内(灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内)
	シアントラニリプロール水和剤	10.3%	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内	4回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)
メタジアミド(30)	フルキサメタミド乳剤	10.0%	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
	プロフラニリド水和剤	5.0%	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
ピリダリル(UN)	ピリダリル水和剤	10.0%	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内

表4 てんさいのシロオビノメイガに対して使用可能な農薬一覧(2026. 8. 4 現在)

殺虫剤系統(RACコード)	農薬の種類	有効成分濃度	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	総使用回数
スピノシン系(5)	スピネトラム水和剤	11.7%	5000～7500倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
ネライストキシン類縁体 (14)	カルタップ水溶剤	75.0%	1500倍	収穫7日前まで	4回以内	4回以内
	フルフェノクスロン乳剤	10.0%	4000倍	収穫7日前まで	4回以内	4回以内
ベンゾイル尿素系 (15)	ノバルロン乳剤	8.5%	3000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
	ルフェヌロン乳剤	5.0%	3000倍	収穫14日前まで	2回以内	2回以内
	フルベンジアミド水和剤	20.0%	5000～6000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
ジアミド系 (28)	クロラントラニリプロール水和剤	5.0%	4000～5000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
	プロフラニリド水和剤	5.0%	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内